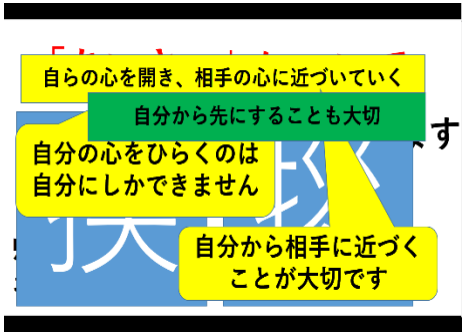
縁（ゆかり） NO.１０	R５．６．６（火）	文責　坂本英明

あいさつについて



地域において，本校児童の，あいさつはいかがでしょうか？

先日の全校集会で，「あいさつ」について話をしました。

「挨拶」の「挨」は，心を開くこと，「拶」は相手に近づくこと，だから，「挨拶」は，自らの心を開き，相手の心に近づいていくことを話しました。

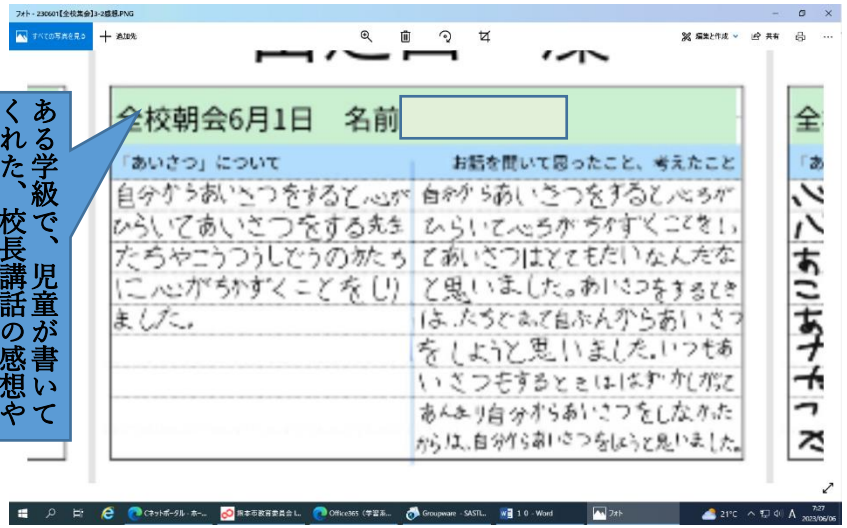
心の通い合った関係を築くために，挨拶は欠かせませんね。強制的に挨拶をさせるのでなく，その大切さを知ったうえで自発的に挨拶できる子どもたちに育ってほしいと思います。ご家庭でも，ご指導よろしくお願いします。

学校教育目標
「自ら考え，判断し行動する子どもの育成」

本校の学校教育目標は，第１号でお知らせした通りです。ただ，その達成は一朝一夕にはいきません。授業中だけでなく，給食や掃除時間，委員会活動等，学校教育全体で育成しなければなりません。

実は，「あいさつ」も学校教育目標を達成するための一つの活動です。例えば，児童が朝，登校指導をしている保護者の方にお会いしたとします。その時，児童が自らあいさつをするためには，まず，保護者と出会ったことに気付き，次に，自らおしゃべりをやめて，さらに，※自分が保護者とどれくらい近づいたときに，どれくらいの大きさの声で，どのようにあいさつをするかを考え，判断しなければなりません。そして，ようやく，「おはようございます。」というあいさつ（行動）をすることができます。

学校が理想とするあいさつは，決められた場所で，決められたあいさつをするのではなく，知っている人に会ったら，自然とあいさつができるようになることです。その意味では，児童にとって，※については相当ハードルが高いと思われます。ですので，あいさつはすぐに，でなく，次第にできるようになってほしい，そして，大きな声でなく，小さな声でも会釈でもいい，と考えています。



ある学級で、児童が書いてくれた、校長講話の感想や気づきです。いろんな感想や気づきを書いてくれてありがとうございました。